

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>30</b>

事業所番号	2172500247
法人名	株式会社 介護社希望が丘
事業所名	グループホーム神戸ひまわり
訪問調査日	平成 20 年 12 月 21 日
評価確定日	平成 21 年 1 月 16 日
評価機関名	旅人とたいようの会

**項目番号について**  
 外部評価は30項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

**記入方法**  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
 [取り組みを期待したい項目]  
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。  
 [取り組みを期待したい内容]  
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家 族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 12月 21日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2172500247		
法人名	株式会社 介護社希望が丘		
事業所名	グループホーム神戸ひまわり		
所在地	岐阜県安八郡神戸町加納178 (電話) 0584 - 28 - 1080		

評価機関名	NPO法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成20年12月21日	評価確定日	平成21年1月16日

## 【情報提供票より】(20年11月25日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 17年 2月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 4人, 非常勤 14人, 常勤換算	4.7人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	1階建の1階 ~ 階部分		

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	48,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 84,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 900 円		

### (4) 利用者の概要(11月25日現在)

利用者人数	18名	男性	3名	女性	15名
要介護1	0名	要介護2	6名		
要介護3	8名	要介護4	0名		
要介護5	4名	要支援2	0名		
年齢	平均 84.2歳	最低	73歳	最高	100歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	田中医院	はやし歯科医院
---------	------	---------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「慣れ親しんだ生活様式が保てるように見守る」「もてる力が発揮できる」「自信と感情が生まれる暮らしを支える」という三つの理念の下、利用者の自主性を尊重し、出来ることはやっていただくよう、職員は、「ゆっくり、一緒に、楽しく」を基本の言葉にしながら日々サポートしている。広い敷地内では、季節の野菜を利用者が作付けしており、それぞれの役割を持ちながら、能力が生かされる工夫がされている。2ユニットあるが、扉はいつも開放され自由に行き来ができ、合同でのレクリエーションやクラブ等には、職員のなごやかな雰囲気作りが生かされている。年2回の家族会は、出席率が高く活発な意見交換の場となっている。介護予防の指定事業所となり、予防事業にも前向きな考え方を抱いて取り組んでいる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 地域との交流が増えるよう看板を設置したり、行事に参加したりと努力されている。行政機関として包括支援センターの参加が得られ、連携できる体制ができつつある。門扉の開閉については、即改善とはならないが、地道な努力をしている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価の意義は理解されていて、月2回のミーティングや朝の引継時において、職員が評価の意義が周知できるよう、話し合いを重ねながら、パート職員の意見も取り入れて自己評価に望んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 隔月の開催時において、地元区長、民生委員、家族会代表者、地域包括支援センター等、様々な分野から意見を聴く機会が多い。行事報告にとどまらず、地域の認知症を支える拠点になり、情報発信していける取り組みをしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 家族会が結成されており、家族間のつながりが強く、率直な提案や意見が直接言える関係になっている。全国組織の認知症家族会の役員にも就任されており、的確に早く確実な情報が入手できる事もあり、双方に良好な関係ができている。来訪が困難な家族には、事業所から電話や手紙にて現況等の報告がされている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会や老人会には入会していないが、地元行事には職員と一緒に参加したり、毎日の散歩でなじみの関係がより深くなる努力がされている。地域の生活がそのまま感じ取れる環境があり、いつでも誰でも自由に来訪できるような開かれた事業所である。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	認知症高齢者の特性を理解し支援する姿勢を基本とし、それぞれの利用者の「慣れ親しんだ生活様式が保てるように見守る」「もてる力が発揮できる」「自信と感情が生まれる暮らしを支える」ことを事業所独自の理念としてかかげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、それぞれの棟の玄関に掲示し、ミーティングや朝の引継時に話し合ったりしながら、全職員で共有して取り組んでいる。利用者の自主性を尊重し、出来ることはやっていただくよう、職員は、「ゆっくり、一緒に、楽しく」を基本の言葉にしながら日々サポートしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会や老人会に入会はしていないが、地元行事には参加をしている。また気楽に事業所を訪問できる機会をつくり、地域の集会や老人会に場所を提供したり、小学生の訪問も受け入れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の意義を理解し、月1回の定例会等で話し合ったりしている。前回評価の改善課題の中門の施設についても話し合い、少しずつ良い方向に進んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、民生委員他地域の代表や家族会からの参加も得て、2ヵ月に1回の割合で開催している。主に行事報告等現状を話し合ったりしながら、サービス向上に役立つ情報交換を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域の認知症を支える拠点事業所として市町村と共に事業所機能を活用できる方法を検討中で、具体的な取り組みや機会作りを模索している。		介護予防教室等を事業所で開くことを提案する等、場所やノウハウを提供しながら、市町村との行き来の機会を多くしていくよう考慮されたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	写真も掲載された「ひまわり通信」をカラー刷りで毎月発行している。家族の訪問時には、個々にいろんな行事や日々の生活の様子を報告している。また来訪できない家族には、電話で報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会が有り、事業所と家族、また家族間の交流も盛んで、要望や意見が多く寄せられ、それらは話し合いを通じて、運営に生かされている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は担当制等を通じ、馴染みの関係を大切にしているので、職員の異動を極力発生させないようにしている。やむを得ない場合は、前任者の記録等を参考に、後の担当者が利用者および家族に対して十分なフォローが出来るようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得の支援を行い、資格手当もある。研修の情報は職員に伝え、重要な研修であれば、事業所費用での受講も行っている。また研修報告書を作成し、回覧している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	当該団体に参加し、ケアプラン作成研修や年一回の発表、見学等相互交流をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	見学や体験入居が出来るようになっている。利用者本人が来られない時には、事業所から2・3人の職員で家庭を訪問し、顔見知りになり、馴染める関係作りをしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	利用者と同じ目線に立つことを心掛け、職員と利用者が一緒に調理へ参加、洗濯物たたみ、野菜作り、草むしり等をしながら、利用者から教えてもらったりと、支えあうことが多い。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	利用者の様子や話から希望を把握する努力をしている。また家族からも、折りに触れて聞くようにしている。記録を通じて、意向の把握が出来るようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	利用者や家族、担当職員や看護師等と一緒に話し合い、医師や歯科医師の所見も反映した介護計画を作成している。		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	3カ月に一度の見直しの他、骨折等による状態の変化や、利用者や家族の折々の思いを反映させながら、臨機応変な短期目標や中長期目標等を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	介護予防の指定事業者の指定を受け、予防事業にも前向きな考え方をもち、地域に根ざした事業所として努力している。		介護予防事業や地域支援事業の実施場所として、事業所の有効活用を提案される等、同じ地域に住む住民の開かれた事業所として、利用者も一緒に参加できるような多機能性にも期待したい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの主治医や他の医療機関にも気兼ねなく受診できる体制となっている。提携医師とは月2回の往診にとどまらず、必要時に要請すれば気易く事業所に出向いて診察してもらえる関係となっている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、看取りの意向を伺い、本人や家族の希望を聞きながら対応している。終末期には、医療機関と連携を取り、毎日の往診も可能であり、穏やかな看取りへの姿勢を全員がもっている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報に記載されている書類は、事務室や介護室にて保管し、他人の目に触れない配慮がされている。排泄介助時に、見守りが必要な人については、カーテン越しにそっと見守るよう支援している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活の中の、何気ない言葉や仕草を見逃さず、希望が引き出せるような働きかけをして、職員と一緒に行動したり、その人のペースで過ごせるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	音楽が流れる落ち着いた雰囲気の中で、身体状況や嗜好を聞きながら、摂取量や食事形態もその人に合わせて対応している。家庭の雰囲気がそのまま感じられるように、陶器の食器を使用し、箸が使用できない人にも食への意欲が進むよう箸を持たせてみる等の配慮をしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	隔日の利用日ではあるが、入浴順や時間や同性介護等、希望を取り入れている。家庭浴槽と同じだが、3方向から介助できるスペースが確保され、安心して入浴できる配慮がされている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	敷地内で栽培した野菜を食材に取り入れ、収穫、下ごしらえ、調理を、共におこなう等の支援がされている。生活歴から興味をもてそうな作業を働きかけたり、利用者のできる能力を引き出す工夫もされている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日、利用者の体力や天候に合わせて、事業所周辺の道路を散歩し、近くの住民とふれあったり、季節の変化を感じ取れるような働きかけをしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関扉は、開放状態でいつでも自由に行き来ができるようになっている。ユニット前の駐車場へ出たい様子が出がわかれる時は、職員と一緒に外出している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、年に2回、消防訓練、通報訓練、避難訓練を実施している。地震対策に居室内のタンスは、耐震用防具で転倒防止策がとられている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック表で、一人一人の摂取量を把握し、低栄養の危険がある人には、高カロリー食を補給する配慮がされている。食事前には、舌や口の働きがよくなる体操や歌を歌って唾液の分泌を促す努力がされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニット間のスペースには、季節の花を植えて楽しんでいる。利用者が作成した作品で壁面を飾ったり、利用者の身体状況に合わせて工夫したイスを用意し、自由にくつろげる部屋にしている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の調度品は、職員が利用者それぞれの嗜好や希望に合わせて用意している。また自由に持ち込みも出来るようになっているので、家族写真を飾ったり、書や絵画を壁面に掲げたり、ソファを置いたり、好みに合わせた個性あふれる居室になっている。		